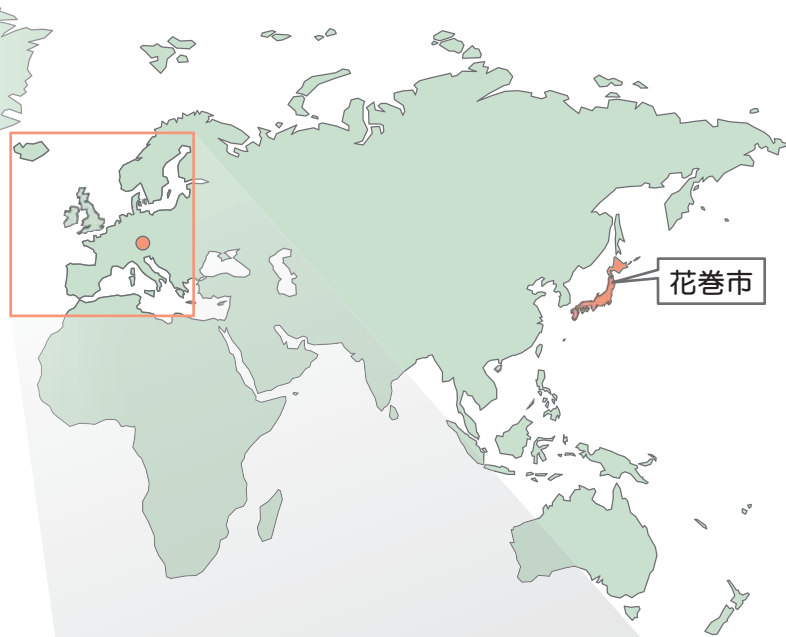
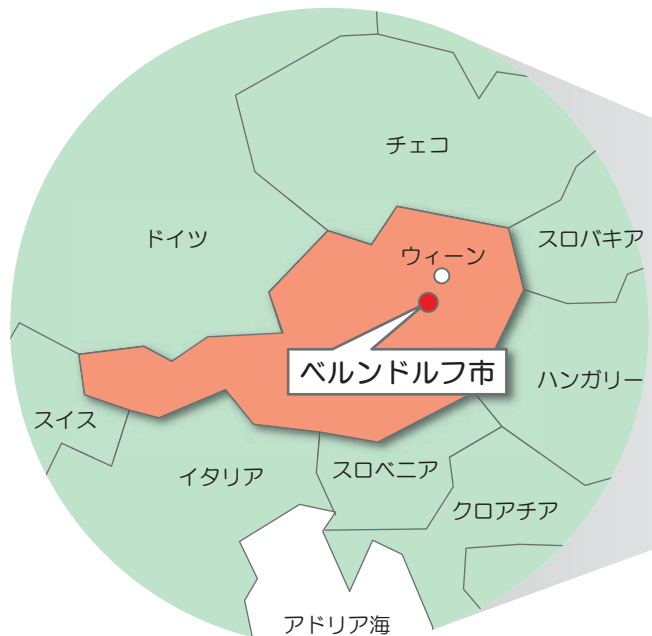


## ベルンドルフ市の基礎情報

- ◆人口 約9,800人
- ◆面積 17.57平方\*<sub>0.01</sub> (亀ヶ森地区よりやや小さい面積)
- ◆位置
  - オーストリアの首都ウィーンから南南西へ約50\*<sub>0</sub>
  - 北緯47度(日本最北端の北海道稚内市宗谷岬から北へ約250\*<sub>0</sub>の位置と同緯度)
  - 日本からは、成田空港を出発し、ウィーン国際空港まで約12時間。さらに車で約1時間
- ◆気候 日本と同じく四季があり、景色の変化で季節を感じることができる。気候は温暖だが、寒暖の差が大きく、花巻より冬の寒さは厳しい
- ◆時差 日本との時差は日本時間のほうが早く8時間(夏時間では7時間)。日本が正午になったとき、ベルンドルフ市は午前4時(夏時間では午前5時)



花巻市



# ベルンドルフ市 友好都市提携50周年

オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市と旧大迫町が友好都市提携を結んでから50年。この間、地域の特色を生かした交流で、友好の絆を育んできました。節目の年を迎えるに当たり、交流の歩みや両市民からのメッセージ、今後予定している記念事業などをお知らせします。

### 交流の始まりは二つの花から

ベルンドルフ市と旧大迫町は、オーストリアの国花で、ヨーロッパアルプスに咲くエーデルワイスと、早池峰山固有のハヤチネウスユキソウがよく似ているという、花が取り持つ縁で友好都市提携を結びました。

この提携の記念式典は、昭和40(1965)年10月12日、大迫小学校グラウンドで開催。以来、両市の

市民が相互に訪問し、友好関係を深めてきました。

平成18(2006)年1月1日には、旧1市3町の合併により新・花巻市が誕生。これを受け、同年11月23日には、新・花巻市とベルンドルフ市との間で、提携継続の調印が結ばれました。友好都市提携50周年のことは、ベルンドルフ市からの訪問団を花巻に招き、記念式典を開催します。

## ベルンドルフ市の魅力

◆歴史ある都市  
ベルンドルフ市は、12世紀ごろの記録にもその名があるほど、歴史のある都市です。現在でも、築100年以上の家が数多く建っています。1898年に完成したベルンドルフ市民劇場(左写真)は、当時をしのばせる美しい劇場であり、市の宝として愛され続けています。



◆主な産業  
代表的な産業は、銀食器と松ヤニです。19世紀半ばに、ドイツ出身のクルップ家がベルンドルフ市に金属洋食器工場を建設し、大きな成功を収め発展。現在も国内外で多くの人に愛用されています。音楽の都ウィーンと同様、ベルンドルフ市でもクラシック音楽が日常的に演奏され、松ヤニは、弦楽器の弦に塗布するために多く生産されています。また香料や薬品にも使用されています。



▲ベルンドルフ市市章  
林業を表す「木」、農業を表す「穀物」、銀食器工業を表す「スプーンを持つ熊」が使われています。

▶ハヤチネウスユキソウ

▲エーデルワイス